

宗門挙げての支援続く

東日本大震災

苦しむ人々の

A large-scale outline drawing of the Japanese phrase "なりたに" (Narita ni) in a flowing, expressive calligraphic style. The characters are rendered in black outlines on a white background, with some internal strokes filled with grey to provide depth and contrast. The characters are arranged vertically, with "なりた" on the left and "に" on the right.

どの支援活動を行つた

3月17日には東北現地本部が仙台別院（仙台市）に宿泊施設を備えた東北教区災害ボランティアセンターを設置。ボランティア活動に関する情報を収集し希望者に提供するほか、支援物資の要望を受け入れの連絡調整などを行っている。

を行つてゐる。

**死者・行方不明者
313人以上**

114件以上の家屋倒壊・消失

3月11日発生の東日本大震災は、宗門にも甚大な被害をもたらした。津波による壊滅的な被害を受けた2カ寺を含め東北、東京教区を中心に290カ寺（2別院含む）から被害報告があった。

門信徒被害は東北教区で家屋倒壊・消失が110件以上あり、279人が行方が死亡し、30人以上が行方不明。このほか、北海道教区で門信徒4人が亡くなったほか、東京教区でも家屋倒壊4件など、大きな被害が確認されている（7月5日現在）。

「緊急災害対策本部（中央本部）」（本部長＝橋正信総長）を設置、東北、東京各教区に「現地緊急災害対策本部（以下、現

のみならず福島県二本松市に拠点を設け、原発事故の被災者を含め福島県での支援活動を重点的に展開。築地場外市場などと連携した長期的な活動も展開している。

被災者への支援を宗門ともに、福島第1原発事

として強力に推進するため、6月17日には「東日本大震災緊急災害対策本部」が設置された。これまでの緊急災害対策本部の活動を引き継ぎ、救援復興対策などと連携して、宗門災害対策やボランティア活動への支援、義援金の募集・配分などを実施する。具体的な活動を展開するため、本山に「宗門災害対策室」が設置された。